

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0390100022
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合
事業所名	グループホーム 岩手高齢協ほっともとみや
所在地	岩手県盛岡市本宮字小幡92-1 (電話) 019-631-3433

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成21年1月20日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】(20年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 18年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 7人, 非常勤 11人, 常勤換算 17.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造(一部鉄筋) 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 9,000(5~9月) 14,000(10~4月) 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	13 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名	
要介護3	7 名	要介護4	4 名	
要介護5	- 名	要支援2	- 名	
年齢	平均 83.7 歳	最低	74 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	プレスト齊藤外科クリニック、ゆいとぴあ歯科、訪問看護ステーションゆとりが丘
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ほっともとみや」は平成18年に開設された新しい建物で明るく木材の肌合いを生かした優しい雰囲気を持っており、盛南開発地域に立地し、近くに県立美術館、アイスアリーナ、市立病院やイオンモールなどがある。利用者の皆さんの表情は明るく、職員とのコミュニケーションの中で和やかな毎日を過ごしている様子が窺(ウカ)がえる。医療連携体制も良く、「プレスト齊藤外科クリニック」は近隣に所在し、速やかに対応して頂けるし、「ゆとりが丘クリニック」の訪問看護ステーションとは、週1回の訪問看護が契約されており、健康管理がなされている。地域との連携にも努力されており、地域への溶け込みが進んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での課題事項は11項目あったが、これらについて改善シートを作成し、改善のために全職員で真摯に取り組んでいる。改善課題の大半は改善状況にあるが、●評価の意義の学習●運営推進会議の委員の確保●プライバシー保護の学習●災害時の地域の連携について、今までの取り組みを踏まえながら更なる努力を期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で協議する中で、自己評価を作成した。記録類や職員個々の意見を踏まえながら、それらを集成して評価とした。業務多忙な時、何故評価が必要なのか、その意義を問い直してみたい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、ホームの運営状況、行事などや、前回会議以降の状況などを報告し、それに対する委員からの質疑、要望、意見を聞き、運営に反映するよう努めている。具体的には全職員の写真掲示や案内看板の設置の要望があり、前者は実現し、後者は検討中である。運営推進会議のあり方を理解し、委員の確保、委嘱を明確にしたい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時に、その都度面会記録にアンケートを求め、運営推進会議において、投書箱の設置、等々の機会に家族の意見、要望、苦情を求め、その内容は職員全員が共有しながら運営に反映するよう努力しており、前項に示したような具体的な例もある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 本宮第四町内会に加入し、一般家庭会員と同様にゴミステーションの掃除、地域の花壇づくり、町内会運動会への参加、消防訓練など日常生活の中での地域連携に努めており、地域とは一方的な関係ではなく、双方向からのつきあいになるようなあり方になっている。来年は町内に公園が完成するので、新公園での合同行事も検討している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型を念頭に「この本宮地区で…」の文言を新たに挿入し、「和・輪・話を大切に毎日笑顔のある楽しい生活を目指す」ことを理念に掲げて実践している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	書の得意な利用者が書いた理念をみんなが見やすいよう階段の昇り口に掲示するとともに、ミーティングでも確認しながら共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	本宮第四町内会(第四班)に加入しており、町内の花壇作りやごみステーションの清掃、町内運動会など地域の方々と共に活動に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価によって指摘された事項について改善シートを作成し、職員全員で取り組んでおり、その真摯な取り組みが見受けられる。更に改善結果の確認、評価と活用への過程を明らかにしたい。	○	評価の意義を職員全員で共有する中で、取り組むことが望まれる。評価とは何か、何のために行うのか、評価をどのように活用するのか等、更に学習を期待したい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催しており、ホームの行事、運営状況を説明と報告をし、それに対する質疑と意見を受けている。委員は固定した状態ではなく、会議の都度選んで案内をしているので外部からの出席者が少ない。	○	早急に幅広く外部の委員を選任し、委嘱状を出す事が望ましいし、運営推進会議に関する規定等を設けることも期待される。運営推進会議の意義とあり方を理解した取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が度々、市の担当者を訪ね「グループホームとしての多機能性への取り組みなどについて」等々、運営上の質問や相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用者の生活の様子は、手紙とバイタルチェック表で健康状態も知らせている。その他に家族の来所時、ケアプラン見直し時、行事時などの機会を利用し、お知らせしている。預かり金の状況は出納簿に記帳し、確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会で来所した時、面会記録簿に記入していただくが、その中に、家族の要望、意見を記入するようになっており、いろいろなことを知ることが出来る。そのほか、あらゆる機会を利用している。職員の写真と名前の表示は実現させ、ホームへの案内板設置の要望は現在検討中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階と2階の2ユニットからなっており、自由に行き来が出来るため、いずれの利用者と職員も馴染みがあり、職員の離職等が生じた場合でもお互いに補い合うように工夫し、利用者へのダメージを防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の高齢者福祉協が行う管理者研修、リーダー研修等の段階別研修や、外部の認知症、リスク管理研修等々、必要な研修に参加すると共に、これらの外部研修の参加者による報告研修を内部で実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会、ブロック会議に出席し意見交流をしている。また同じ高齢者福祉協内のグループホーム「ほっとくりやがわ」とは2ヶ月に渡り、職員交流の研修を持つなど、交流の機会を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に来所頂き、「ほっともとみや」の雰囲気を感じ取っていただく。それは何回でも納得のいくまでということである。またホームから自宅を訪ねている本人のことや家族の要望、意見なども聞くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の皆さんの喜怒哀楽の感情が自然に出せるような関係、そして、その感情を共有できるようにしていく。本人の希望を尊重した多様な対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と職員との間の日常生活でのコミュニケーションを大切にすることで、言葉や動作を感じとり、その意向を把握することに努めると共に、職員は個々の利用者の意向を共有化することで、支援に具現化している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人、家族、主治医や看護師からの意向、留意点などをもとに、毎月のカンファレンスで話し合っており、利用者個々の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画を見直すことと、それまでの取り組みの評価を行なっている。見直し以前でも状態の変化に応じて、家族、関係医療機関とも連携を取って、カンファレンスを実施しつつ、計画の見直しや検討をその都度やっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は利用者個々に家族が対応することになっているが、家族が対応出来ない場合は、職員が通院支援に当たっており、状況はその都度家族に報告している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人と家族の意向によって決まっている。現状は協力医療機関をかかりつけ医とする利用者が多い。協力医療機関はホームの近隣に所在し、対応を迅速にして頂ける。また訪問看護ステーションとの連携で、週1回の訪問看護と緊急時の対応も得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は現在内容を検討中であるが、昨年末から1月にかけて、長年慢性腎不全を患っていた93歳の利用者の方を看取った経験は、家族、かかりつけ医、訪問看護などとの密接な連携を取った対応のあり方など職員にとっても大きなものであった。		左記の看取り経験は、現職員が現実を通して共有が出来たことであって、その時の心情を含め取り組んできた様子を記録としホームの方針等に活かしていくことを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の記録類は書庫に保管し、取り扱いに注意している。個人の尊厳、とりわけ羞恥心には心するように努めているが、プライバシー保護のあり方の研修にはまだ取り組んでいない。	○	プライバシー保護については、相手の立場に立ち、誇りを損ねない取り組みなど認められるが、昨年の外部評価でも指摘のあった幅広くプライバシーについて理解するため、更なる学習を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	2ユニットで18人の利用者が生活しているので大わくの規定は必要であるが、あくまで一般家庭と同じ考え方である。利用者の生活は個々のペースを最も大切にしたい支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が協力しあって準備や片付けをしている。メニューは利用者の希望を勘案しながら1階、2階の職員が相談しながら決めている。年に4～5回は利用者の希望による外食もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに、午後1時30分から午後4時30分の時間帯で行っているが、これにとらわれず、利用者の希望によって出来るよう対応している。入浴の際はプライバシー(特に羞恥心)に配慮するよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味と特技は、多種多様であり、家庭菜園、絵画、将棋、読書など、それぞれが活かされるように支援している。中には職員も教えられながら取り組んでいるものもある。その他、散歩、卓球、買い物などでも楽しみや気晴らしをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季はどうしても外出、散歩は少なくなる。冬季以外は、ほぼ毎日散歩に出ているし、買い物、地域のイベント、行事などに出る。冬季は外出不足を補うためにもウッドデッキでの外気に当たることに心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ鍵をかける。日中は玄関は自由に入出入り出来るが、音の響きの柔らかいチャイムをつけて人の出入りを感じとることにしている。居室には鍵は無く、全職員が共同でさりげなく見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度から防火管理者を複数置き、災害対策に力を注いでおり、地域からの支援についても運営推進会議等を通してお願いしている。ホームとしても年に2～3回の訓練を夜間も含め実施してきた。	○	地域からは火災については支援要請に応えられるが、地震など火災以外の場合は、地域にも独居高齢者を抱えていることから、ホームまで手が回らないので独自に取り組んで欲しいと言われているが、やはり地域全体の防災の中に位置づけて全てに協力が頂けるように理解されるよう取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は、個人ごとに毎日の業務日誌とバイタルチェック表に記入している。栄養バランスについては、配慮はしてきたが、今後、栄養士によるチェックを受けるよう早急に対応する。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柱、梁、腰板など木材の年輪など、それらの持っている温かみを生かした作りで、キッチン、ダイニング、リビングが一体になっており、採光も和らかく適度で、白い壁面には絵画の小品がさりげなく掲げられていた。浴室、トイレを含め、全てに掃除が行き届き清潔である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの思いが込められた居室になっている。家族写真、衣装棚、位牌など、自分の好みのもので大切なものを持ち込んで、それぞれの居室を作っている。		